

□主な内容

【エコモ財団より募集を開始しています！】

- 平成 30 年度エコドライブ活動コンクール(5/1～募集開始)

[http://www.estfukyu.jp/pdf/EST\\_mailmagazine\\_vol.141\\_2.pdf](http://www.estfukyu.jp/pdf/EST_mailmagazine_vol.141_2.pdf)

- 小学校におけるモビリティ・マネジメント教育の自治体支援(募集中)

[http://www.mm-education.jp/jititai\\_sien.html](http://www.mm-education.jp/jititai_sien.html)

- 第 8 回地域の交通環境対策推進者養成研修会(福井)(6 月～募集開始)

EST 交通環境大賞(環境大臣賞)を昨年度受賞した福井で、9 月 3 日(月)～5 日(水)の3日間、地域の交通環境対策推進者養成研修会を開催します。

目次

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 141 回)

- 「新しい酒は新しい革袋に」

【室蘭工業大学大学院工学研究科 准教授 有村幹治】

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 141 回)

- 「福井県におけるクルマに頼り過ぎない社会づくり」

【福井県クルマに頼り過ぎない社会づくり推進県民会議 会長 豊北欽一】

3. ニュース／トピック

- まち・住まい・交通の創蓄省エネルギー化モデル構想が策定【国土交通省】

- 第 12 回 大都市交通センサス調査の分析結果の公表について【国土交通省】

- 国内の水素ステーション 100 か所に【経済産業省】

- 第五次環境基本計画が閣議決定【環境省】

- エコドライブ活動コンクールの募集のご案内【エコモ財団】

- 小学校におけるモビリティ・マネジメント教育の支援自治体の募集について【エコモ財団】

- 物流分野における CO2 削減対策促進事業の公募開始【一般財団法人環境優良車普及機構】

- 量販型燃料電池バス「SORA」を発売【トヨタ自動車株式会社】

- 東京都内におけるカーシェアリングサービスのトライアル実施に関する合意書締結について【パーク 24 株式会社】

- JR 貨物の平成 29 年度コンテナ輸送実績 2.0%増【日本貨物鉄道株式会社】

- 「バス自動運転サービスの実用化に向けた実証」に合意【SB ドライブ株式会社、宇野自動車株式会社】
- 駐車管理システムと連動した EV 充電器の発売【日本信号株式会社】
- 外国人利用者に向けた公共交通案内情報の共通化をめざした取組指針の取りまとめ【京都市】
- ごみ収集車の燃料に廃食油をリサイクルしたバイオディーゼル燃料を使用【千葉市】
- 県内全高校生の新入生などに「エコ通学のススメ」配布【群馬県バス協会】
- 2017 年の温室効果ガス排出量推定値を公表、前年比で若干減少【ドイツ連邦環境省】
- 交通を規制する低排出ゾーンの詳細計画を公表【スウェーデン環境・エネルギー省】
- 排出ガス基準を満たす大型貨物車への課税を 10%減に【イギリス環境・食糧・農村地域省】

#### 4. イベント情報

- 第 16 回 アジア太平洋地域 ITS フォーラム【2018/5/8-10】
- 第 29 回 国際水素・燃料電池パートナーシップ運営委員会 一般初公開！「世界における水素・燃料電池の最新動向」【2018/5/11】
- BICYCLE CITY EXPO 2018 ～自転車まちづくり博～【2018/5/29-30】
- エコライフ・フェア2018【2018/6/2-3】
- 第 13 回日本モビリティ・マネジメント会議(JCOMM)【2018/7/27-28】
- 第 10 回土木と学校教育フォーラム【2018/7/29】
- 第 8 回地域の交通環境対策推進者養成研修会(福井)【2018/9/3-5】
- 第 25 回 ITS 世界会議コペンハーゲン 2018【2018/9/17-21】
- 京都スマートシティエキスポ 2018【2018/10/4-5】
- 第 16 回 ITS シンポジウム 2018【2018/12/13-14】

#### 5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
- 電動小型低速車に関する情報を掲載しています！
- 記事募集中！

---

---

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 141 回)

●「新しい酒は新しい革袋に」

【室蘭工業大学大学院工学研究科 准教授 有村幹治】

札幌都心部で展開するコミュニティサイクル“ポロクル”に、草創期から関わり、今年で 10 年目になりました。当初フランス・リオンで展開していた vélo’v と、その背景にある都市圏交通計画(PDU)の関係性を意識しつつ、我が国でシェアリングサービスを展開するには、社会基盤や制度インフラ含め未だ多くの課題があることを、研究者、行政、コンサルタント、まちづくり会社、環境 NPO の皆様と議論したことを覚えています。その後、我が国では、所謂“コンパクトシティ+ネットワーク”に係る各種法制度整備が進められてきましたが、都市交通システム相互の有機的結合に係る諸課題は未だ解決していないように思えます。

そのような中、ここ数年、所謂 IoT の浸透と移動技術の進化、市場展開の速度に合わせた新しい交通システムのありかたについて考える機会が増えてきました。世界に目を向けると、ITS 世界会議ボルドー2015 以降、MaaS (Mobility-as-a-Service) や CASE (Connected、Autonomous、Shared、Electric) といったキーワードに代表される移動技術の概念に注目が集まりました。ヘルシンキでは、目的地までの最適な公共交通、タクシー、レンタカー、ライドシェアの組み合わせをアプリで提示し、月額制で運賃を支払う MaaS アプリケーション“Whim”が展開されています。我が国においても、大都市だけではなく、地方都市においても複数の交通手段のシェアリングサービスが展開される時代に入りつつあります。自転車シェアリングだけ顧みても、昨年度は Mobike や oFo といったポートレスタイプの自転車シェアリングの国内展開、また不動産賃貸業の事業参入等々、多くの話題がありました。保有からシェアへの潮流は、個別の交通具のみに留まらず、事業者が保有するデータやリソースの共同利用にも拡がりつつあります。

新しい移動技術概念に対応した交通社会基盤は、どのようにリノベーションされるべきでしょうか。幼少期からネットに触れ、スマホを介して友人と自由に繋がることを好む学生の姿を見るにつれ、「新しい酒は新しい革袋に盛れ」という言葉を思い出します。

---

## 2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 141 回)

### ●「福井県におけるクルマに頼り過ぎない社会づくり」

【福井県クルマに頼り過ぎない社会づくり推進県民会議 会長 豊北 欽一】

福井県は1世帯あたりの自家用車保有台数が全国トップ(約1.75台)であり、3km未満の移動であっても半数以上が自家用車を利用する過度のクルマ社会です。そうした慣習の中、福井の地域鉄道は何度も存廃危機に直面してきました。

過去にはえちぜん鉄道(以下、えち鉄)の前身である京福電鉄が二度の正面衝突事故を起こし、全線が運行休止。代替バスを運行しましたが、輸送力の大幅な低下により各地で通勤通学者の積み残しが発生したほか、マイカー利用が急増したことで幹線道路の大渋滞が発生し、住民は鉄道の必要性を再認識しました。鉄道存続を訴える住民運動の声は次第に大きくなり、県と沿線市町村は議論を重ね、県が資産取得費用や設備投資を負担し、市町村が資本金や運営での欠損を補填する方式で存続を決定し、第3セクター会社であるえち鉄を発足。そこで確立された行政の積極的な支援の考えは、福井鉄道(以下、福鉄)に対しても継承されました。

当会は平成23年に発足し、利便性の向上及び利用者数の維持・増加が公共交通の持続可能性および環境対策につながると考え、様々な利用促進策を行っています。

その一環で、平成28年3月27日、えち鉄と福鉄、異なる事業者による鉄道と軌道の相互乗り入れ事業を行いました。同日には福井駅西口広場の整備に合わせて、JR福井駅からやや離れた場所にあった電停を駅前広場に移設しました。また、中心市街地交差点の右折車両分離方式信号とPTPSの導入により定時性が確保され、えち鉄では新型低床車両の導入や駅ホームの低床化を実施。このように鉄道が利用しやすくなったことにより、移動手段がクルマから鉄道へと転換され、幹線道路の渋滞の緩和にもつながり、多方面から二酸化炭素削減に寄与しています。

平成29年度からは新たな取り組みとして、交通機関への再生可能エネルギー・回生エネルギーの活用を進めています。発生した電力を自動走行車(電気自動車)やEVバス、駅舎照明・空調等に供給する仕組みを検討しており、さらなる省エネ化及び二次交通の充実化を図っています。

平成30年は「福井しあわせ元気」国体・障スポ大会が開催され、5年後には北陸新幹線敦賀開業により、県外から多くのお客様をお迎えすることになります。今後とも、県外から来られた方にも移動しやすい環境づくりに努めてまいります。

---

#### 4. ニュース／トピック

##### ●まち・住まい・交通の創蓄省エネルギー化モデル構想が策定【国土交通省】

国土交通省では、低炭素社会の実現に向けて都市規模、地域特性に応じた、まち・住まい・交通の一体的な創蓄省エネルギー化を図る先導的なモデルの構築を図っております。今年度は石狩市、大町市、松江市、安田町、福岡市の 5 地域のモデル構想が策定されました。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10\\_hh\\_000160.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10_hh_000160.html)

##### ●第 12 回 大都市交通センサス調査の分析結果の公表について【国土交通省】

国土交通省では、首都圏、中京圏、近畿圏の三大都市圏における鉄道・バス等の利用実態を調査し、旅客流動量や利用状況、乗換え施設の実態を把握することを目的に大都市交通センサス調査を行なっています。この度、平成 27 年に実施された本調査の分析結果を公表しました。

[http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei\\_transport\\_tk\\_000007.html](http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000007.html)

##### ●国内の水素ステーション 100 か所に【経済産業省】

燃料電池自動車 (FCV) の普及拡大に向けた環境整備を推進するため、2013 年度より商用水素ステーションの整備が進められています。この春、新たに 8 か所の水素ステーションが開所することで、国内の水素ステーションは世界に先駆けて合計 100 か所となります。先般設立されました「日本水素ステーションネットワーク合同会社」(JHyM)を中心に、今後も水素ステーションネットワークの更なる拡大が期待されます。

<http://www.meti.go.jp/press/2017/03/20180323004/20180323004.html>

##### ●第五次環境基本計画が閣議決定【環境省】

環境基本計画は、環境基本法に基づき、政府の環境の保全に関する総合的かつ長期的な施策の大綱等を定めるものです。中央環境審議会の答申を受け、第五次環境基本計画を平成 30 年 4 月 17 日 (火) に閣議決定しました。パリ協定採択後に初めて策定される環境基本計画で、経済、国土、地域、暮らし、技術、国際の 6 つの「重点戦略」を設定し、環境政策の具体的な展開を図ります。

<http://www.env.go.jp/press/files/jp/108982.pdf>

●エコドライブ活動コンクールの募集のご案内【エコモ財団】

エコモ財団では、今年度も「エコドライブ活動コンクール」の参加者を募集します。優れた取組を行っている事業者を表彰し、その取組内容を紹介することによりエコドライブの更なる普及を目指しています。最も優れた取組の事業者には、国土交通大臣賞(事業部門)、環境大臣賞(一般部門)が授与される予定です。

[http://www.estfukyu.jp/pdf/EST\\_mailmagazine\\_vol.141\\_2.pdf](http://www.estfukyu.jp/pdf/EST_mailmagazine_vol.141_2.pdf)

●小学校におけるモビリティ・マネジメント教育の支援自治体の募集について【エコモ財団】

エコモ財団では、環境問題について学び始める小学生を対象にしたモビリティ・マネジメント教育に取り組む地方公共団体に対して、ノウハウの提供や資金面での支援を行い、継続的に実施するための拠点づくりを行なっています。現在、平成 30 年度からの支援自治体を募集しています。

[http://www.mm-education.jp/jititai\\_sien.html](http://www.mm-education.jp/jititai_sien.html)

●物流分野における CO2 削減対策促進事業の公募開始【一般財団法人環境優良車普及機構】

物流分野からの二酸化炭素の排出を抑制するための設備や技術等を導入する事業に対する補助金を交付する事業を実施しています。モーダルシフトの促進事業や荷役システム導入事業など 11 の事業が補助金の対象となります。事業の公募の期間は、4 月 12 日(木)から 5 月 14 日(月)までです。

<http://www.levo.or.jp/fukyu/butsuryu/index30.html>

●量販型燃料電池バス「SORA」を発売【トヨタ自動車株式会社】

トヨタ自動車は、燃料電池バス(以下、FC バス)「SORA」の型式認証を FC バスとして国内で初めて取得し、3 月 7 日より販売を開始しました。今後、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、東京を中心に 100 台以上の FC バス導入が予定されています。

<https://newsroom.toyota.co.jp/jp/corporate/21862392.html>

●東京都内におけるカーシェアリングサービスのトライアル実施に関する合意書締結について【パーク 24 株式会社】

トヨタ自動車株式会社とパーク 24 株式会社は、東京都心の一部におけるカーシェアリングサービスの業務提携を開始します。本トライアルに使用する車両は「TOYOTA C-HR」60 台、期間は 2018 年 6 月から 2019 年 3 月末までの 10 カ月間を予定しています。

<http://www.park24.co.jp/news/2018/04/20180403-1.html>

●JR 貨物の平成 29 年度コンテナ輸送実績 2.0%増【日本貨物鉄道株式会社】

JR 貨物が平成29年度の輸送実績を発表し、コンテナ全体で前年比 102.0%となりました。積合せ貨物が労働力不足・労務管理厳正化により中長距離帯における鉄道利用が伸長したことや、自動車部品は国内自動車販売が好調に推移し、東海地区発を中心に大きく増送となったことが影響しました。

<http://www.jrfreight.co.jp/common/pdf/news/2018-04-18-02.pdf>

●「バス自動運転サービスの実用化に向けた実証」に合意【SB ドライブ株式会社、宇野自動車株式会社】

ソフトバンクグループの SB ドライブ株式会社と、岡山県内で路線バス事業を運営する宇野自動車株式会社は、「バス自動運転サービスの実用化に向けた実証」について合意しました。自動運転車両による路線バスの運行は、運転手不足や路線維持等のバス会社が直面する課題解決や、交通弱者の移動を支援の手段となることが期待されます。

[https://www.softbank.jp/corp/group/sbd/news/press/2018/20180406\\_02/](https://www.softbank.jp/corp/group/sbd/news/press/2018/20180406_02/)

●駐車管理システムと連動した EV 充電器の発売【日本信号株式会社】

日本信号は、駐車管理システムと連動した EV 充電器の発売を開始しました。コインパーキングの精算機と EV 充電器を接続することで、EV 充電管理と、通常の駐車料金体系に加えた EV 充電料金が加算されます。事前登録不要で充電が可能となるため、利用者の利便性向上が期待されます。

<http://www.signal.co.jp/spdf/290.pdf>

●外国人利用者に向けた公共交通案内情報の共通化をめざした取組指針の取りまとめ【京都市】

京都市に宿泊する外国人が 300 万人の大台を超え過去最高を更新するなど、外国人が京都の公共交通を利用する機会がますます増加する中で、案内をいかに分かりやすく伝えるかが交通事業者共通の課題です。そこで、京都市内を運行するバス・鉄道事業者 16 社局・学識経験者・行政など多彩なメンバーによる議論が行われ、その内容を踏まえた案内情報の共通化に向けた取組指針の初版が取りまとめました。

<http://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/page/0000216968.html>

●ごみ収集車の燃料に廃食油をリサイクルしたバイオディーゼル燃料を使用【千葉市】

地域団体や事業者と協働で、廃食油を回収・精製して、バイオディーゼル燃料等にリサイクルする資源化ルートを構築し、ごみの減量・再資源化を推進してきました。このバイオディーゼル燃料を環境事業所のごみ収集車の燃料として使用することで、廃食油のリサイクルに関する認知度を高め、回収量の増加及び回収拠点の拡充を図るとともに、バイオディーゼル燃料を活用することで、環境負荷を軽減し、低炭素社会の形成を目指しています。

<http://www.city.chiba.jp/kankyo/junkan/haikibutsu/28bdf.html>

●県内全高校生の新入生などに「エコ通学のススメ」配布【群馬県バス協会】

群馬県バス協会は県内全高校生の新入生および保護者を対象に、リーフレット「エコ通勤のススメ」を配布しました。この活動は平成23年度から続けられています。

<http://www.busnet-gunma.jp/ic-news/detail/886/>

●2017年の温室効果ガス排出量推定値を公表、前年比で若干減少【ドイツ連邦環境省】

ドイツ連邦環境庁は、2017年の温室効果ガス排出量推定値を公表しました。これによると、ドイツ国内の2017年の温室効果ガス排出量は9億470万トンとなり、前年比で約470万トン減少。エネルギー部門の排出量が大幅に減少した一方で、交通部門では、1億7060万トン(2.3%増)の増加となりました。

<https://www.bmu.de/pressemitteilung/klimabilanz-2017-emissionen-gehen-leicht-zurueck/>

●交通を規制する低排出ゾーンの詳細計画を公表【スウェーデン環境・エネルギー省】

スウェーデン環境・エネルギー省は、都市の大気汚染対策となる低排出ゾーン(区域)の詳細な計画を公表しました。重量車、乗用車、電気自動車の通行に関し3種類の低排出ゾーンを設け、これらを導入する権限を2020年1月1日から自治体に与えます。

<http://www.government.se/press-releases/2018/04/government-makes-announcement-on-low-emission-zones/>

●排出ガス基準を満たす大型貨物車への課税を10%減に【イギリス環境・食糧・農村地域省】

イギリス環境・食糧・農村地域省はEUの排出ガス基準を満たしている大型貨物車への課税を10%減らすと発表しました。イギリスでは、全自動車の総走行キロに占める大型貨物車の割合は5%のみですが、輸送部門から排出される窒素酸化物の20%を占めているため、基準を満たす貨物車の普及を進めています。

<https://www.gov.uk/government/news/cleanest-lorries-will-pay-less-to-use-uk-roads>

---

## 5. イベント情報

● 第 16 回 アジア太平洋地域 ITS フォーラム

日時:2018 年 5 月 8 日(火)~10 日(木)

場所:福岡国際会議場

主催:アジア太平洋地域 ITS フォーラム 2018 福岡実行委員会

[http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid\\_110/katsudou2014tabid\\_110ap\\_forum16/](http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid_110/katsudou2014tabid_110ap_forum16/)

● 第 29 回 国際水素・燃料電池パートナーシップ運営委員会 一般初公開!「世界における水素・燃料電池の最新動向」

日時:2018 年 5 月 11 日(金)

場所:神戸ポートピアホテル

主催:IPHE 事務局

<http://www.city.kobe.lg.jp/information/press/2018/03/20180328190501.html>

● BICYCLE CITY EXPO 2018 ~自転車まちづくり博~

日時:2018 年 5 月 29 日(火)~30 日(水)

場所:東京ドームシティ・プリズムホール

主催:BICYCLE CITY EXPO2018 実行委員会

<http://www.rising-publish.co.jp/bicyclecity-expo2018/>

● エコライフ・フェア2018

日時:2018 年 6 月 2 日(土)~3 日(日)

場所:代々木公園 ケヤキ並木(NHKホール前)/イベント広場

主催:環境省

<http://ecolifefair.env.go.jp/>

● 第 13 回日本モビリティ・マネジメント会議(JCOMM)

日時:2018 年 7 月 27 日(金)~28 日(土)

場所:愛知県豊田市 名鉄豊田ホテル

主催:一般社団法人日本モビリティ・マネジメント会議

<https://www.jcomm.or.jp/convention/>

● 第 10 回土木と学校教育フォーラム

日時:2018 年 7 月 29 日(日)

場所:土木学会講堂

主催:公益社団法人土木学会

土木計画学研究委員会「交通まちづくりの実践」研究小委員会

<http://committees.jsce.or.jp/education04/>

● 第 8 回地域の交通環境対策推進者養成研修会(福井)

日時:2018 年 9 月 3 日(月)~5 日(水)

場所:福井カルチャーセンターホールなど

主催:EST普及推進委員会、エコモ財団、中部運輸局

● 第 25 回 ITS 世界会議コペンハーゲン 2018

日時:2018 年 9 月 17 日(月)~21 日(金)

場所:Bella Center

主催:コペンハーゲン市

[http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid\\_100/copenhagen-2018/](http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid_100/copenhagen-2018/)

● 京都スマートシティエキスポ 2018

日時:2018 年 10 月 4 日(木)~5 日(金)

場所:けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)、国際高等研究所、けいはんなプラザ 等

主催:京都スマートシティエキスポ 2018 運営事務局

<https://expo.smartcity.kyoto/news/ksce2018.html>

● 第 16 回 ITS シンポジウム 2018

日時:2018 年 12 月 13 日(木)~14 日(金)

場所:同志社大学 今出川校地 寒梅館

主催:同志社大学、特定非営利活動法人 ITS Japan

[http://www.its-jp.org/event/its\\_symposium/16th2018/](http://www.its-jp.org/event/its_symposium/16th2018/)

---

## 6. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ  
<http://www.green-m.jp/>
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！  
<http://www.ecomo.or.jp/environment/eco-commuter/index.html>
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！  
配信申込はこちらから  
<http://www.mm-education.jp:80/magazine.html>
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！  
[http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon\\_offset/carbonoffset\\_system.html](http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon_offset/carbonoffset_system.html)
- 電動小型低速車に関する情報を掲載しています！  
[http://www.ecomo.or.jp/environment/nev/nev\\_top.html](http://www.ecomo.or.jp/environment/nev/nev_top.html)
- 記事募集中！  
本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。  
EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: [magazine@ecomoto.or.jp](mailto:magazine@ecomoto.or.jp) (担当: 熊井、中道)

---

発行: 環境的に持続可能な交通 (EST) 普及推進委員会事務局  
(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

[https://p.blayn.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail\\_ecomo](https://p.blayn.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo)

EST ポータルサイト: <http://www.estfukyu.jp/>